

平成30年度病床機能報告 定量的基準（静岡方式）に基づく試算結果

構想区域	2018年稼働病床数		2025年		静岡方式との差 (B-C)
	病床機能報告 (A)	静岡方式に基づく試算 (B)	病床の必要量 (C)	稼働病床数 (D)	
賀茂	高度急性期	0	77	20	57
	急性期	247	130	186	▲ 56
	回復期	189	244	271	▲ 27
	慢性期	353	338	182	156
	全体	789	789	659	130
熱海伊東	高度急性期	64	59	84	▲ 25
	急性期	557	374	365	9
	回復期	158	361	384	▲ 23
	慢性期	358	343	235	108
	全体	1,137	1,137	1,068	69
駿東田方	高度急性期	740	1,149	609	540
	急性期	3,066	1,688	1,588	100
	回復期	747	1,875	1,572	303
	慢性期	2,027	1,868	1,160	708
	全体	6,580	6,580	4,929	1,651
富士	高度急性期	58	583	208	375
	急性期	1,437	599	867	▲ 268
	回復期	449	662	859	▲ 197
	慢性期	594	694	676	18
	全体	2,538	2,538	2,610	▲ 72
静岡	高度急性期	1,378	975	773	202
	急性期	2,271	1,896	1,760	136
	回復期	803	1,525	1,370	155
	慢性期	1,965	2,021	1,299	722
	全体	6,417	6,417	5,202	1,215
志太椋原	高度急性期	251	639	321	318
	急性期	1,732	1,054	1,133	▲ 79
	回復期	546	836	1,054	▲ 218
	慢性期	852	852	738	114
	全体	3,381	3,381	3,246	135
中東遠	高度急性期	388	444	256	188
	急性期	998	837	1,081	▲ 244
	回復期	551	656	821	▲ 165
	慢性期	1,088	1,088	698	390
	全体	3,025	3,025	2,856	169
西部	高度急性期	2,065	787	889	▲ 102
	急性期	2,238	2,911	2,104	807
	回復期	766	1,412	1,572	▲ 160
	慢性期	2,394	2,353	1,449	904
	全体	7,463	7,463	6,014	1,449
県全体	高度急性期	4,944	4,713	3,160	1,553
	急性期	12,546	9,489	9,084	405
	回復期	4,209	7,571	7,903	▲ 332
	慢性期	9,631	9,557	6,437	3,120
	全体	31,330	31,330	26,584	4,746

静岡方式の結果に基づいた現状と課題（例）

- ・ 全体の稼働病床数が病床の必要量を130床上回っている。
  - ・ 高度急性期は病床の必要量を57床上回っているが、現場感覚や実態はどうか。
  - ・ 慢性期が必要病床数を上回るが、療養病床を有する病院は2施設のみであることに留意する必要がある。
- ・ 全体の稼働病床数と病床の必要量はほぼ同程度。
  - ・ 静岡方式では高度急性期～回復期は病床の必要量とほぼ同程度。現場感覚や実態はどうか。
  - ・ 慢性期は伊東病院の閉院(43床)により減少したため、慢性期が不足する状況とならないよう留意する必要がある。
- ・ 全体の稼働病床数が病床の必要量を1,651床上回っている。
  - ・ 静岡方式では、急性期が大きく減少し回復期が充足する。現場感覚や実態はどうか。
  - ・ 介護医療院への転換予定(4施設317床)が示されており、慢性期が減少する見込み。
- ・ 全体の稼働病床数と病床の必要量はほぼ同程度。
  - ・ 静岡方式では高度急性期が充足し、急性期が不足する状況とならないよう留意する必要がある。
  - ・ 介護医療院への転換等により、慢性期が不足する状況とならないよう留意する必要がある。
- ・ 全体の稼働病床数が病床の必要量を1,215床上回っている。
  - ・ 静岡方式では高度急性期～回復期は病床の必要量と概ね同程度となっているが、現場感覚や実態はどうか。
  - ・ 介護医療院への転換予定(2施設378床)が示されており、慢性期が減少する見込み。
- ・ 全体の稼働病床数と病床の必要量はほぼ同程度。
  - ・ 静岡方式においては高度急性期が病床の必要量を318床上回る。現場感覚や実態はどうか。
  - ・ 慢性期はほぼ同程度。介護医療院への転換等により慢性期が不足する状況とならないよう留意する必要がある。
- ・ 全体の稼働病床数が病床の必要量を169床上回っている。
  - ・ 静岡方式では高度急性期が充足し、急性期が不足する。現場感覚や実態はどうか。
  - ・ 介護医療院への転換予定(5施設320床)が示されており、慢性期が減少する見込み。
- ・ 全体の稼働病床数が病床の必要量を1,449床上回っている。
  - ・ 静岡方式では高度急性期が不足し、急性期が充足する。現場感覚や実態はどうか。
  - ・ 介護医療院への転換予定(4施設355床)が示されており、慢性期が減少する見込み。
- ・ 全体の稼働病床数が病床の必要量を4,746床上回っている。
  - ・ 高度急性期と回復期の稼働病床数が病床の必要量とほぼ同数。
  - ・ 慢性期の稼働病床数が病床の必要量を3,120床上回っている。介護医療院への転換等の動向に留意する必要がある。

